

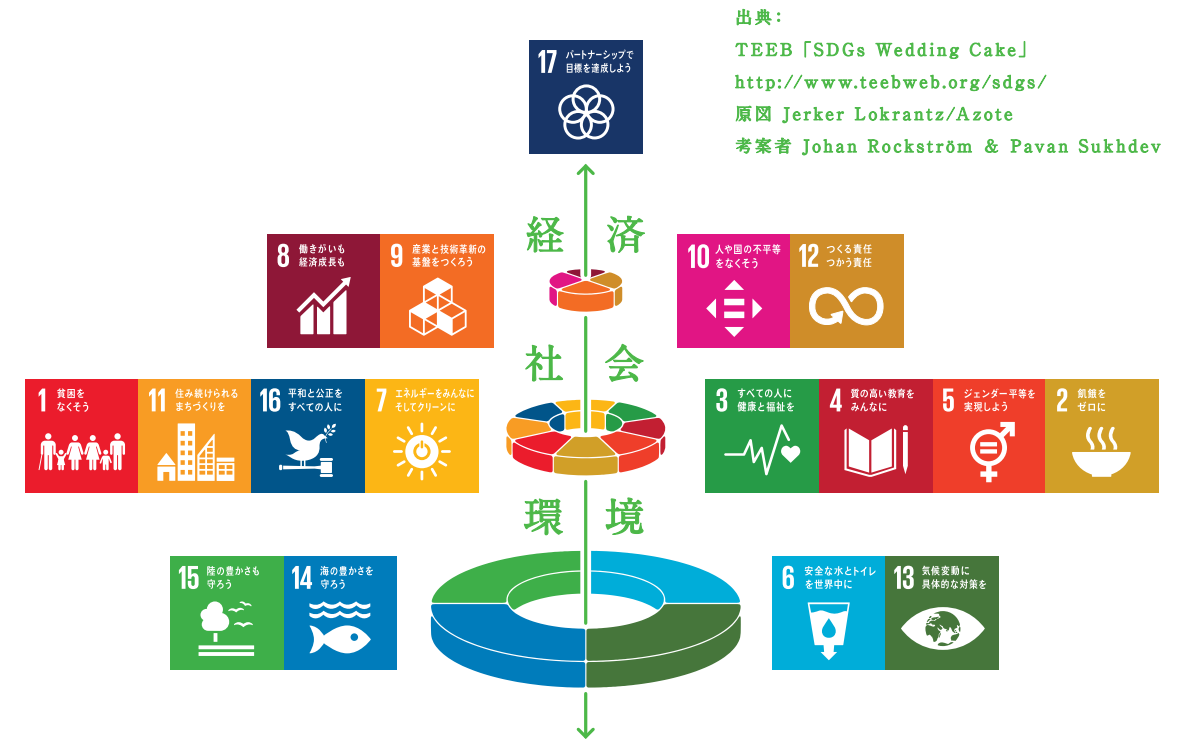


SDGs 未来都市とよた



SDGsは、 世界を変える 17の目標。

私たちが生きている世界には、
いま、さまざまな課題があります。
その解決に向けて、2015年に
国連サミットで採択されたものが、
エスディー・ジーズ
SDGs（持続可能な開発目標）。
2030年までに達成すべき
17のゴールが設定されています。
それは、国連加盟国193か国の
みんなで一緒に目指す
「誰一人取り残さない」ミライ。



豊かな自然環境が、社会も経済も支える。

SDGsの17の目標は、どれか一つだけ達成すればいいものではありません。
それぞれの目標をつなげ、統合的に達成することで、持続可能な世界が実現されます。
その土台にあるのが、豊かな自然環境。地球がもたらす恵みのおかげで、
私たちの社会が成り立ち、経済が動いて、心豊かな暮らしができるのです。

豊田市はSDGs未来都市へ。

かけがえのない自然環境を守り、無理なく無駄なく快適に暮らす「ミライのフツー」を目指して、先進技術や新たな社会システムをかたちにしてきた豊田市。SDGs達成に向けた取組をリードしていく自治体「SDGs未来都市」として内閣府から選定されました。

SDGsを見据えた、豊田市の2大プラットフォーム。

「都市」と「山村」が共存し、さまざまな人、地域、企業、技術にあふれる豊田市。その一つひとつのちからをつなぎ、「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」を重点に、SDGs達成に向けた取組を広げています。

「ミライのフツー」をつくる、とよたの歩み。

将来都市像

つながる つくる

暮らし楽しむまち・とよた

人と人、人と地域、自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざします。



都市



豊田市

つながる社会

実証推進協議会

先進技術・システムの実証・実装を通じ、地域課題を解決する。

市民、企業、金融機関、教育・研究機関、官公庁をつなぎ、新たな技術や社会システムの研究・開発・実証を推進するプラットフォーム。資源・エネルギーの地産地消、超高齢化社会への対応、交通安全の推進を課題として取り組んでいます。

山村



おいでん・さんそんセンター

いなかとまちをつなぎ、豊かな暮らしを提案する。

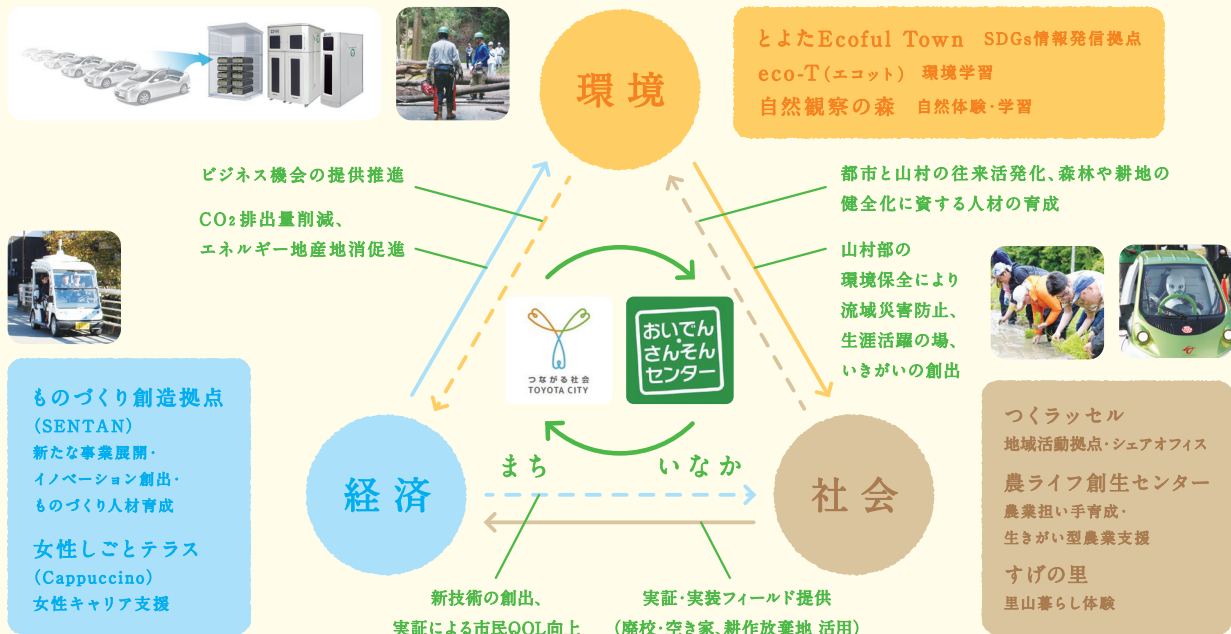
都市と山村の交流をコーディネートし、人と人、地域と企業・団体をつなぐプラットフォーム。都市と山村それぞれの課題解決、多彩なライフスタイル、地域の新たな魅力創出を支えます。

「つながる」まちづくりでSDGs達成をさらに加速。

異なるもの同士がつながることで、ミライを動かす新たなちからが生まれます。
 「豊田市つながる社会実証推進協議会」と「おいでん・さんそんセンター」の
 2大プラットフォームを中心に、豊田市内の施設やそこに集う多様な人・団体が
 分野の垣根を越えてつながり、SDGs達成や持続可能なまちづくりを進めます。

SDGsの活動拠点になる、豊田市内のさまざまな施設〔一例〕

新しいイノベーション創出 「エネルギー」「モビリティ」「ウエルネス(健康・ライフスタイル)」



環境



エコフルタウン

とよたEcoful Town

持続可能な「つながる社会」に向けた豊田市の取組や多彩な先進技術を体感できる施設。パビリオン内にSDGsに関する展示があり、未来について楽しみながら考えを深めることができます。

社会



つくラッセル

地域の人々の「つどう」「はたらく」「つくる」拠点。旧築羽小学校の校舎を活用し、コワーキングスペースやシェアオフィス、図工室、電工室、カフェ、運動施設などを整備しています。

経済



センター

ものづくり創造拠点 SENTAN

とよたイノベーションセンターや豊田市が連携し、ものづくり企業・団体の新製品開発、販路開拓、人材育成などを支援。ものづくりの力を次代につなぎます。



カフェ

豊田市女性しごとテラス Cappuccino

結婚、出産、育児、介護を機に離職した女性の再就職を応援する相談窓口。キャリアコンサルタントによるカウンセリング、各種セミナー・イベントなどを通し、就職決定まできめ細かくサポートします。

とよた里山猪肉カレープロジェクト



里山の恵みがカレーに変身し、さまざまな価値につながる。

カレー専門店をフランチャイズ経営する(株)ワイズは「食材がつけられている現場を知ろう」という思いのもと、おいでん・さんそんセンターのマッチングにより社員の農業研修を行っています。そこで里山の課題である獣害に直面し、飲食店のノウハウを活かした地域貢献を決意。ジビエ肉の加工施設を運営する猪鹿工房(株)山恵と共働して「猪肉キーマカレー」「猪肉和風カレー」を開発しました。商品キャラクターの考案や宣伝活動では、足助高校の生徒も力を発揮。さらに、市内の数多くの小売店が販売に協力しました。里山の恵みである猪肉がおいしい商品へと生まれ変わり、獣害対策、ジビエ振興、食文化や観光ビジネスを通じた教育など、さまざまな花を咲かせています。

≡ GOAL



2016年冬
おいでん・さんそんセンターで商品開発会議を開催。以来、試作・試食や宣伝戦略のプランニングなどを幾度となく積み重ねた。



2017年夏
足助高校で商品発表会を開催。市内での一般販売もスタートし、販売実績は2万食以上(2018年12月時点)。



2018年秋
猪肉カレーの取組が、内閣官房・農林水産省主催「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の優良事例に選定。東京のマルシェやインターネットで販売し、全国に向けてPR。

木製名札ケースプロジェクト



豊田市産木材の活用を推進し、豊かな森を100年先へとつなげる。

豊田市の森林の約半数を占める人工林の約6割は、間伐が必要な森と推定されています。そこで豊田市は適切な間伐を行い、100年先を見据えた森づくりに力を注いでいます。豊田市産木材の利用推進も、森林を守るための取組の一つ。障がい者の工賃・賃金向上を目指す豊田市共同受注窓口(株)アルディが、豊田市森林課の橋渡しによって森林組合、あさひ製材協同組合、障がい者の就労を支える「畦道」と連携し、木製商品の開発に挑みました。発案者であり、商品開発のアドバイザーを務めたのは、市内在住の木工名人。それぞれが力を出し合い、あたたかみのある木工品が完成しました。その名札ケースは豊田市の職員約2,500人が使用し、「森づくりの大切さ」を伝えています。

≡ GOAL



豊田市産木材のブランドマーク「クラフトウッド」を刻印。

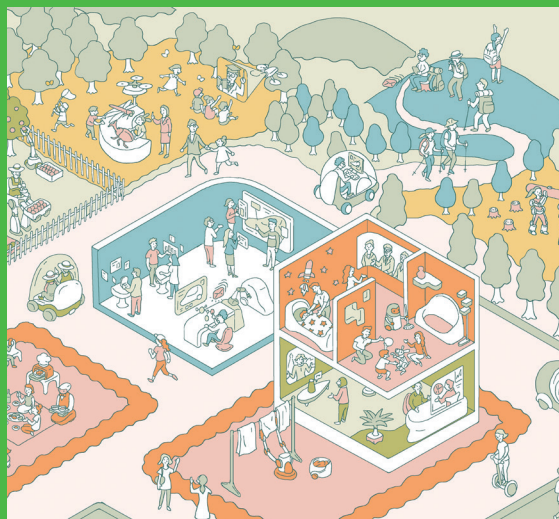


豊田市産木材をあさひ製材協同組合が製材し、「畦道」で働みなさんが一つひとつ手作業で加工。多くの人の手によって、ぬくもりを感じる名札ケースが仕上げられている。

SDGs達成に向けて、どうアクションを起こす？

SDGs達成に欠かせないのは、みんなの心を一つにすること。
同じゴールを見据え、いろいろな分野の人々が協力すると、
世界をよりよい方向に動かす大きなちからが生まれます。
どんなミライに進みたいのか、みんなで目標を共有して、
そこに向かって一人ひとりが「今、できること」を始めましょう。

“未来都市とよた”が形づくる豊かな暮らしとは？



【豊田市つながる社会実証推進協議会「未来都市とよた ビジョン」より】



先端教育

子どもの才能を伸ばし、
夢を叶える。

先進生活

個々のニーズにあった
仕事や暮らしの実現。

生涯活躍

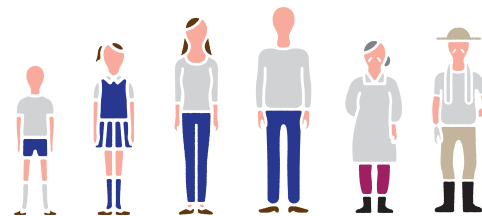
年齢にとらわれない
活躍の実現。

自然共生

農林業の振興と親しめる
自然環境の維持。

みんなで一緒に
豊かなミライを
つくろう。

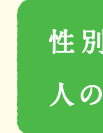
SDGsは、
遠い世界のものではありません。
わたしたちの明日に、直結します。
「自分ごと」として踏み出した一歩が、
みんなが笑顔で暮らせる
豊かなミライをつくれます。



わたしのSDGs宣言！



食事は適量を用意して、
残さずおいしく食べる！



性別や年齢、国籍などで
人のことを決めつけない！



電気をつけっぱなしに
しないで、こまめに消す！

あなたは？

みんなのちからが、ミライをつくる。
できることから、一つずつ始めよう。



豊田市

Toyota City